



人と生きる

富山県中学校長会

会長 水戸 英之

最近、人生を振り返ることが時々ある。特に意識しているわけではないのに。還暦が近づいてきているせいなのだろうか。還暦は、干支（十干十二支）の周期が一巡りし、元に戻ることを意味する。こうした生きる周期の中で、人生を振り返るということが、自然に起きているのだとすれば、還暦という言葉の意味が妙に理解できる気がしている。（本当にそうなのだとすれば、干支の考え方方がこの世に誕生した時代に、人はすでに生きるメカニズムを理解していたということか…）

還暦の話題はさておき、自分の人生を振り返る中で、私の過去は、いつの時代も周りに誰かがいた。いつも周りの誰かに支えられてきた。自分に力を貸してくれたとか、助言を与えてくれたとか、進むべき方向を示唆してくれたというもののだけではなく、直接的な働きかけはなくとも、その存在が心の支えになってくれたという場合もある。だから、今の自分がある。今もそうだ。多くの人に支えられている。過去の自分を支えてくれた多くの人たち、そして、今の自分を支えている多くの人たち、すべての人たちに心から感謝している。

私は、とにかく人が好きだ。これまで、自分なりに人とのつながりを大切にしてきたが、年々その思いが大きくなっている。（周りは面倒な人だと感じているかもしれないが…）

世の中の変化に適切に対応することが求められ、A Iが社会生活に占める割合が高まる今、学校教育は大きく変わっていかなければならぬ。しかし、学校教育の中で、最も大切にしていかなければならぬことは、A Iとの付き合い方でも、A I時代に対応できる技術力でもない。人としての自分の在り方を見つめること、人との関わりを考えることである。

今の立場になって、いろいろな人と関わる中で、自分なりに心掛けていることがある。

「まずは共感すること。励ましや指摘は今でなくてもいい。」

「肩書ではなく役割を意識すること。」

「ただ決裁するのではなく、起案（提案）の内容に共感する意識をもつこと。」

「限界、無理だと感じたら、視点、やり方を変えること。」

こうした自分なりの思いをもとに、仲間と一緒に改善し、仲間と一緒に挑戦し、仲間と一緒に失敗するようにしている。

また、私たちは仕事柄、よく「がんばれ」という言葉を口にしがちである。でも、人それぞれに能力も違えば、成果も違う。その姿や結果に対する見え方も人それぞれである。だから、「もっとがんばれ」ではなく、「もう1歩前に進んでみよう」という方が、人にやさしいのではと思う。

自分の人生を振り返るようになって初めて感じたことがある。それは、今歩いている人生の道を選んで本当によかったということである。

「もし違う道を選んでいたら…」とか、「本当にこの道を進んでいいのだろうか」と考えたことはある。今、とても充実している。今の道を選んだことに満足している。この道を選んだ過去の自分を褒めたい。

これまで、全力で精一杯進んできたと思える。それは、自分の支えになってくれる人の存在があったから。

これから先の時代を彩る人たちには、どんなことがあっても、人とのつながりを大切にし、自分が選んだ道を全力で精一杯進んでいってほしい。生きていく中で、違う人生は経験できないのだから。